

校内研究だより 第2号

南関第三小学校
令和6年7月1日
研究主任：福永隆智

【研究主題】

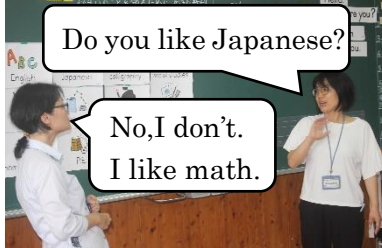

粘り強く課題解決に取り組む児童の育成
～書く力を高める国語科学習を通して～

【目指す資質・能力】

協力する力・考える力・やり抜く力

6月26日（水）第5校時、辻田先生と前田先生が、5年外国語科の研究授業を行いました。

○単元名「What do you have on Monday?」（KAIRYUDO「Junior Sunshine 5」）

 <p>How are you?</p>	 <p>music</p> <p>music</p>	 <p>Do you like Japanese?</p> <p>No, I don't. I like math.</p>
<p>①はじめのあいさつを、日直が英語で言います。</p>	<p>②教科の発音を繰り返し練習し、身に付けます。</p>	<p>③デモンストレーションを見ます。</p>
 <p>分からない時は、黒板を見て確かめます。</p>	 <p>Do you like English?</p> <p>Yes, I do.</p>	 <p>相手の目を見て、大きな声で言っていました。ジェスチャーもありました。</p>
<p>④ペアで会話をします。（1回目）</p>	<p>⑤代表児童の発表です。</p>	<p>⑥会話の良い所を見つけました。</p>
 <p>Eye contactを意識して。</p>	 <p>I like math and PE</p>	
<p>⑦ペアで会話をします。（2回目）先生とも会話しました。</p>	<p>⑧自分が好きな教科を英語で書きます。書く時に気をつけることを確かめました。</p>	<p>⑨ふりかえりカードに、できたことや友達の頑張りを書きました。</p>

★ 共通実践事項

- 友達の発表に reaction する。
- 書けるようになるための手立ての工夫

これから、みんなで取り組んでいきましょう。よろしくお願いします。

◎先生方の授業後の感想

これまでの準備、大変お疲れ様でした。子どもたちの表情が良く、伸び伸びとしている様子から、日々の先生とのつながりや授業への姿勢がよく分かりました。また、学習していく上での環境整備がすごいと思いました。教科プレートの文字、週末作文の取組など、工夫が多く見分かりました。私も真似したいと思います。（大西千晶）

とても勉強になった研究授業でした。一つ一つの活動に意味を持たせることの大切さを改めて感じました。外国語においては、コミュニケーションを行う目的、内容、状況を明確にして言語活動を行うことが重要だと知りました。書く活動や単元の目標を考える際のヒントになりました。ありがとうございました。(松田真実)

授業研究会

◎自評

(辻田) 時間割の教科を英語にした。英語に興味がある子が多く、張り切って取り組んでいた。授業の流れなどで、前田先生にお世話になった。

(前田) 中学校で20年以上教えてきた。小学校は初めてである。子どもたちは、とても頑張っていた。授業後に、できたことを言いに来た。

◎質疑応答

Q: 今日のねらいは? A: Do you like を使い、やりとりを行うこと

Q: どの位の量を書けばいいのか?

Q: 書く活動を入れたねらいは? A: 自分の好きな教科に興味をもって書くこと

◎グループ協議で出た意見

良 か っ た 点	導入での先生方のデモンストレーションが良かった。教材の練習が工夫されていた。順次、ステップアップされていた。会話がいきいきとしていた。友達や先生との会話を積極的に楽しみ、慣れ親しんでいた。導入で、大きな声で発音、リズム、テンポよく流れていた。中間指導の中で、子どもの声、ジェスチャーの指導がよかった。ペアでの会話が、児童の手本で改善されていた。前田先生がリアクションの言葉を出されて、臨機応変に指導されていた。
課 題	指名に偏りがあった。見取りが難しい。前に出て発表させると子どもの表情が硬くなっていた。「Yes,I do.」の答えが多く、「No,I don't.」が少なかった。教科名を書く必要感。ピリオドを書いていない子がいた。振り返りの意識。
改 善 策	教科名を言う練習を最初に行う。中間指導で質問タイムをとる。会話の様子をタブレットで撮影して、電子黒板に映し出す。好きな教科を3つと決めておき、それ以外は No,I don't. で答えるようにする。子どもたちが書いた英語のワークシートをスカイメニューで紹介する。

県立教育センターの栗原佳代指導主事から、指導助言をいただきました。

学習規律ができていました。話すことができないと、書くことができません。今日の授業は、意味のある活動だったと思います。先生が英語を使っている姿を、子どもたちに見せることは、重要なロールモデルとなります。

外国語活動も外国語も、「言語活動」を通して資質・能力を育成することになっています。単元終了時の児童の姿や単元を通じた学習課題が「~するために」と書かれており、目的意識が明確になっています。

「Small Talk」は、本当の出来事や気持ちを表現します。中間指導では、内容面と言語面から指導を行います。英語で表現できなかったことを確認し、学級全体に問いかけるようにするといいと思います。Small Talk で大事にしたいことは、Eye Contact や Clear Voice、Positive Reaction などです。前田先生の誉め言葉 Very good や Wow、Good Job など、また、オウム返しに言うことも安心感につながります。

主体的で対話的な学びとなるように、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等を明確にした言語活動の設定が必要です。また、児童の振り返りは、言語面と内容面で行うのが望ましいといえます。

このような授業を続けていけば、子どもたちはきっと外国語が好きになると思います。やる気を引き出すよう、頑張っていきましょう!!